産業機器用コネクター育成

ヒト型ロボ軽量化に貢献

イリソ電子工業社長　**鈴木 仁氏**

イリソ電子工業は2026年度に3カ年中期経営計画の最終年度を迎える。モビリティー（自動車）分野で「高速伝送対応可動BtoB（基板対基板）コネクタ」の需要が増加し、インダストリアル（産業機器）分野でエネルギーマネジメント関連の好調が継続するなど、25年度は過去最高の売上高を更新する見通しだ。26年度の売上高目標650億円、長期ビジョンの同1000億円の達成に向け、鈴木仁社長に今後の展望について聞いた。

―今後、注力する分野は。

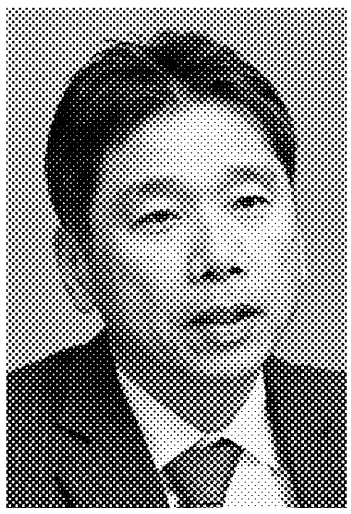
「売上高の約85%を占める自動車分野がベースになるので、引き続き伸ばしていく。これまでも電気自動車（EV）や自動運転の関連に力を入れてきたが、今後も技術トレンドである同関連を伸ばす。また工場自動化（FA）やロボット関連など産業機器分野を自動車分野に次ぐ第2の柱に育てる。グローバルでは米Arrow Electronics（アロー・エレクトロニクス）や商社などと連携し、裾野を拡大する」

―25年4月に国内2部分のみをカスタマイズ（個別対応）するこ カ所目のコネクターとで幅広い顧客ニーズ 貫生産拠点となる秋田に対応できるコンセプ 工場（秋田県横手市）トが稼働しました。

「秋田工場では機器『Unit-able』の部品の量産を開始している。さらに27年にも車載メーカー向 側のソケットを標準化け パワートレーン（駆動装置）分野の量産が し、インターフェース 見込めそうだ」

―1月に米ラスベガスで開催されたテクノロジー見本市「CES2026」に出展しました。海外の反応は。

「メクテック（東京都港区）と共同展示を実施した。コネクターとフレキシブルプリント基板（FPC）を連携させ、ヒューマノイド（ヒト型）ロボットに適した軽量化・省スペースに貢献するソリューションを海外に訴求できた」



―企業が成長を続けるには、人材育成が課題です。

「エリヤフ・ゴールドラット博士の理論による科学的な仕組みを活用し、生産効率を上げる。既に25年度から試行的に始めており、26年度以降に運用を始めるなど、人材育成に力を入れていく」

記者の目

売上高1000億円突破に向け戦略

鈴木社長は「労働人口の減少をカバーするには自動化・ロボット化しかない」と強調する。今後、産業界では自動化が加速し、ヒューマノイドロボットの普及が進むとみられる。得意とする自動車分野に加え、産業機器分野の研究開発やマーケティングに注力することで、売上高1000億円突破に向けた新たな成長戦略を描く。

（編集委員・川瀬治）

日刊工業新聞　－　イリソ電子工業株式会社　無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社